売薬の意匠あれこれ 〈その21〉すだれ(簾)

一般社団法人 北多摩薬剤師会会長　平井 有(ひらい・たもつ)

今年は新型コロナウイルス感染症予防のためのマスク装着もあり、一段と暑い夏でした。

さて、今回は夏の風物詩の一つ「すだれ(簾)」をご紹介いたします。

すだれは、水辺に自生するイネ科の蘆(アシ・ヨシ)や割って細くした竹などを糸で編み連ねたものです。その歴史は古く、万葉集の時代にもあったようで、「アシ」が「悪し」に通ずると忌み嫌い「善し」にちなんで「ヨシ」とも呼ばれています。すだれに縁を付けた高価な御簾(みす)は、平安時代に宮廷や貴族の屋敷、神社、仏閣などで部屋の間仕切りや日除け、牛車(ぎっしゃ)にも使われました。東京都の伝統工芸に指定されている「江戸簾」は、日除けなどの実用品としてはもちろん、インテリアとしての用途が広まり、モダンなものも作られるようになってきています。

今回ご紹介するすだれは、ポスターのような役割を担ったもので、紙製のポスターと比べると高級感があります。糸が切れるとバラバラになってしまうので完品で残っているのは珍しいことです。また、夏のものというイメージがあるせいか、蚊取り線香など防虫製品の宣伝物として広く使われました。

縦88cm×横18cm

縦92cm×横18cm

「亀田六神丸」亀田利三郎薬舗

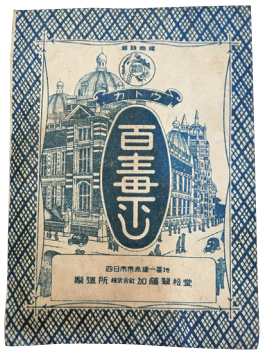
六神丸

その処方の起原を古代の中国に持つ「六神丸」のうち、代表的な「亀田六神丸」は発売が明治26年(1893)と伝統薬の中では新しい薬です。かつての配置売薬では、ほとんどのメーカーが六神丸を発売しており、今でも十数種類の「○○六神丸」があります。

縦62cm×横15cm

百毒下し

製造している翠松堂製薬の創業は室町時代末期の1570年といわれ、数多い伝統薬メーカーの中でも最古参といえます。「百毒下し」は日本にマスクを広めたといわれる初代陸軍軍医総監の松本良順が同社に伝授した伝承薬と伝えられています。



「百毒下し」加藤翠松堂 (現 翠松堂製薬)

安住蚊取り線香

安住大薬房

縦89cm×横24cm

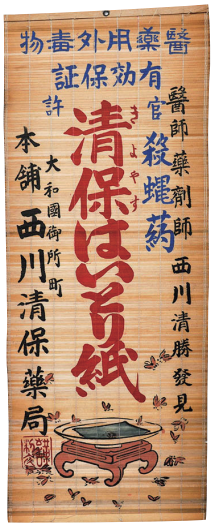
蚊取り線香

慶賀堂

縦94cm×横30cm

清保蠅取り紙

西川清保薬局



縦77cm×横30cm

除虫粉

製造販売：大正除虫菊(現 ライオンケミカル)
特約総代理店：一金商会

縦74cm×横36cm